

目次

ご使用前に必ずお読みいただきたいこと	3
ダイビングに際しての注意事項	4
製品の特長	7
各部の名称とはたらき	10
時刻の合わせかた	11
日付の合わせかた	16
ダイビング機能の使いかた	18
ダイビング警告機能について	27
水深計測上の注意事項	30
用語の定義と説明	32
ログデータの呼び出しかた	35
ワンタッチアラームの使いかた	39
回転ベゼルについて	42
ルミブライトについて	43
電池について	44
電池交換後のお願い(システムリセット)とご注意	48
使用上の注意とお手入れの方法	49
こんな時には	52
ダイバーアシスターの操作	54
アフターサービスに関する事項	55
補修用性能部品に関する事項	55
製品仕様	56

ダイビングに際しての注意事項

必ずお読みください

この項目では、ダイビングの前、中、後での注意事項を記述してあります。それぞれの注意事項を守り、より安全なダイビングを心がけてください。

尚、この注意事項は後で述べる説明を十分理解しないと分からないものもありますので、理解できない項目についてはそれぞれの説明をよく読むことが必要です。

ダイビング前

時計が正常に作動しているか、バンド、ガラスに傷・ひび等がないか、バンドがケースに確実に固定されているか、チェックしてください。

時計が正常に作動しているかのチェック方法は？

時刻は正しく示しているか？

電池寿命切れ予告の「2秒運針」をしていないか？

ログデータ(2回分)の呼び出しが正しくできるか？

各針の「0位置」が合っているか？

深度針が「計測停止」表示位置(58分位置)を指していないか？

これらに異常が認められる場合は、ダイビングには使用しないでください。

携帯温度と水温とに極端な差(直射日光下に放置された時計を水中に入れる場合など)がある場合には、正確な水深計測はできません。ダイビングの前に時計を水に約5分程度浸してからご使用ください。

4

深度の数値は、海水(比重=1.025)を基準としていますので、湖水等の淡水で使用する場合など、実際に深度を知る場合には、補正して求める必要があります。

湖水など淡水で比重が1.00と仮定した場合
深度針 = 29.2m 実際の深度 = 29.2 × 1.025 / 1.00 = 30.0m
ダイビング中はどのボタンも操作はできません。

ダイビング後

ゴミ・砂・海水等を真水でよく洗い流してください。特にケースと回転ベゼルの間にゴミがたまると圧力センサーが正しく作動しなくなります。

水分感知センサー部に汚れ等が付着すると、水分感知に異常が発生します。特にきれいに洗ってください。

時計を洗ったあとはよく拭いてください。

洗い流せない場合は、お買い上げ店、またはセイコー取扱店にご相談ください。

時計本体がガソリン・アルコールなどの薬品に触れると、センサーの故障の原因になりますのでご注意ください。

6

2. ログデータの自動記録機能

最新2回分を自動記録！

ログデータが自動的に記録されます

・深度1.6m以深を感知した潜水については、自動的にそのログデータを記録します。

・最大深度、平均深度、潜水時間、潜水開始時刻の4大データを記録します。ログデータは潜水後、見ることができます

・最新2回分のログデータを呼び出し、見ることができます。

・一旦記録した「潜水開始時刻」は、時刻合わせをし直しても、その時刻を表示するようになっています。海外で潜水し、帰国後ログデータを見た際も現地の時刻で再現できます。

3. ダイビング警告機能

浮上速度警告

・18m/分相当を越える浮上を感知すると、1/10m針の動きと警告音とで知らせます。

・実際には10秒ごとの深度を比較し、約3mを越える浮上を感知した場合警告を發します。

計測範囲外表示 L I M I T

・水深計測の範囲をオーバーした水圧を感知した場合深度針が「56分位置」(LIMIT)を示します。

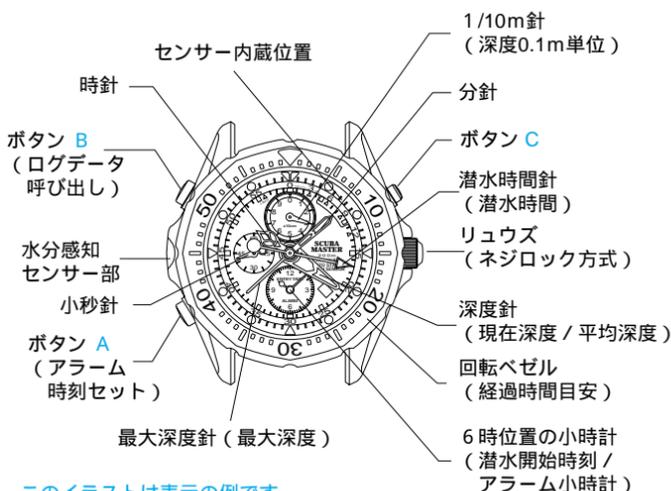
計測異常

・万一水深計測に異常が発生した場合、深度針が58分位置を示し異常が発生したことを知らせます。

・電池寿命切れが近づいた場合は、計測スタンバイ状態で深度針が58分位置になり、水深計測を行わないことを示します。

8

各部の名称とはたらき



10

ご使用前に必ずお読みいただきたいこと

警告

- ・本取扱説明書で指示された操作以外は絶対にしないでください。
- ・ヘリウムガスを使用する「飽和潜水」には絶対に使用しないでください。(空気ポンペを使用する潜水用)

注意

- ・この時計を実際のダイビングに使用するときには、ご使用前に正しく作動しているか点検をしていただくと共に、使用中においても本取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。
- ・ダイビングに関する安全教育やトレーニングを受け、それに従ったルールを守ってご使用ください。
- ・水深計測機能は専門的な計器としてのご使用はできません。あくまでも目安としてご使用ください。
- ・深度は、比重1.025の水(海水)中で、0 ~ 40 の範囲内の水温下でダイビングが行われるものとし、計測表示します。これ以外の条件下では、深度は正しく表示できません。
- また、大気圧の急激な変動や水中の環境が時計の性能に影響をおよぼすことがあります。他の計器などを併用することが必要です。
- ・潜水時間を無減圧限界時間への使用

3

大幅な気圧・温度変化のあるところや、水深計測保証温度範囲(0 ~ 40 °C)外で使用した場合、深度表示に狂いが出るばかりでなく、陸上においても「1.6m」以深の深度を示し、水深計測状態から抜け出すことができなくなりますので、リュウズを1段目まで引き出してください。

(30ページ「水深計測上の注意事項」参照)

これから潜水することで、記憶している2つのログデータの内、前々回のログデータが自動的に消えることとなりますので、ログブックなどに記録することをお勧めします。リュウズのネジロックが確実にしてあるか確かめてください。

ダイビング中

岩などの硬いものにぶつけないよう注意してください。

水中ではリュウズのネジロックをゆるめることや、リュウズを引き出すことは絶対しないでください。

深度針が正しく作動しているか確認してください。

深度1.6m以深を感知してからは、浮上速度警告音との誤認を避けるため、アラーム(ワンタッチアラーム)はキャンセルされます。

水深計測は毎秒行いますが、深度針が運針中は行いません。

浮上速度警告表示中(警告音鳴鐘中)は水深計測はできません。また、浮上速度警告が浮上の過程に感知した場合、警告を一旦中断し水深計測をしてから警告表示および警告音を出す場合があります。

水中では環境・携帯条件により、浮上速度警告音が聞こえにくい場合がありますのでご注意ください。

水深計測中に深度針が「58分位置」を示した場合、ただちにダイビングを中止するか、この時計の使用を止めてください。

5

製品の特長

この時計は、水深計測機能をもったスキューバダイバー用の時計です。

1. 全自動計測ダイビング機能

通常携帯からダイビングOK! オートスタート

- ・通常携帯のまま、ダイビングをしても自動的に水深計測を開始します。
- ・ダイビング前の基本的なチェックさえしておけば、ほかの操作は必要ありません。
- ・水分感知センサーと圧力センサーとで、いつでもスタートOK!です。

深度表示 3本の深度針がダイナミックな動きと共に深度情報を提供します。

・0.1m単位で1.6m ~ 55.0mまでの水深計測が可能です。計測の間隔は1秒です。

・現在深度は幅広い「深度針」と0.1m単位を12時位置の「1/10m針」とで示し、最大深度は、置き針式の「最大深度針」で、表示します。

時間管理 潜水開始から終了までの時間情報を記録します。

・深度1.6m以深を感知すると、その時刻を潜水開始時刻として6時位置の「小时計」が示します。

・同時に潜水時間の計測を始め、1/5分ステップで1周60分の表示をします。

・深度1.6m未満を感知すると、潜水時間の計測を中断し、10分以内は再潜水が行われるかの検出のため待機状態になります。

7

4. ワンタッチアラームアラーム機能

- ・約12時間先までのアラームセットができます。
- ・現在時刻からアラームセットできるワンタッチアラーム機能です。

5. 電池寿命切れ予告機能つき

- ・電池寿命が近づくと小秒針が2秒運針して知らせてくれます。
- ・安全のため計測スタンバイ状態では深度針を58分位置にずらし、水深計測ができないことを示します。

時刻の合わせかた

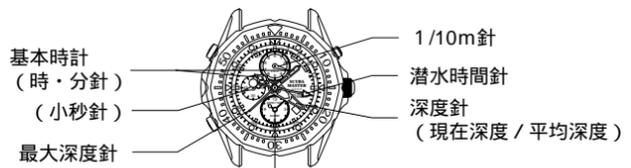
(基本時計とアラームの合わせと各針の0位置合わせ)

- ・この時刻のリュウズを2段目に引き出すと、いくつかの合わせが同時にできます。

リュウズ2段目のできること

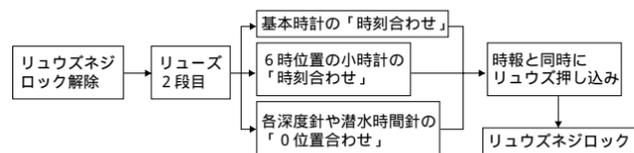
基本時計の「時刻合わせ」
6時位置の小时計の「時刻合わせ」
1/10m針、深度針、最大深度針、潜水時間針の「0位置合わせ」

- ・特に「基本時計」と「6時位置の小时計」はしっかりと合わせましょう。「6時位置の小时計」はログデータの潜水開始時刻として記録されます。
- ・以下の説明どおりに合わせると、「6時位置の小时計」の運針ステップを小秒針の「0秒」に合わせられます。



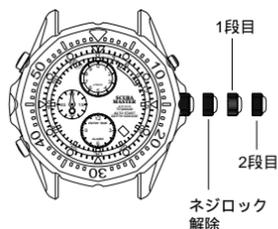
11

合わせの全体像



「3つの合わせ」についてはどの順番で行ってもかまいません。最後にリュウズを押し込むときに、時刻がスタートしますので、合わせ込む場合はやや余裕のある先の時刻に合わせておきましょう。「日付け」は単独で合わせできません。ここでは合わせません。

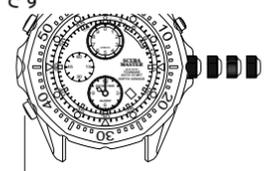
リュウズを左に回してネジロックをゆるめてください。小秒針が、ちょうど「0秒」の位置に来たとき、リュウズを2段目まで引き出してください。このとき基本時計は止まり、6時位置の小時計は現在時刻を示し止まります。各深度針と潜水時間針は0位置に進み止まります。



ここは基本時計の時刻合わせです。リュウズを回し時刻を合わせます。日付が変わるところが午前0時です。午前と午後を間違えないように合わせてください。合わせ時刻に対して4～5分進めてから戻して合わせてください。



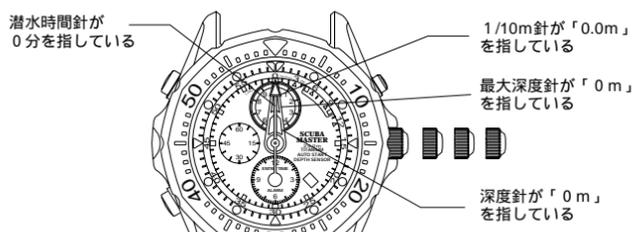
ここは6時位置の小時計の時刻合わせです。ボタンAを押して6時の小時計の時刻を合わせます。基本時計を合わせた時刻に合わせてください。この小時計には午前午後はありません。



ボタンA
1回押すごとに「1分」進みます。押し続けると早く進みます。

ここからは各深度針と潜水時間針の0位置合わせです

- 各深度針と潜水時間針の0位置がずれていた場合は、操作～を行ってください。
- 下図を参照にそれぞれの針の0位置が合っている場合は、操作へ進んでください。



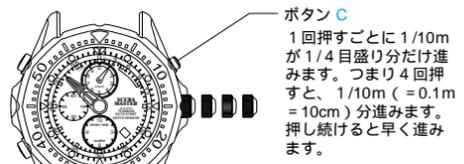
0位置が合っている状態

ボタンBを押して、潜水時間針を0位置(0分)に合わせます。

ボタンB
1回押すごとに「1/5分」ステップで進みます。押し続けると早く進みます。



ボタンBとボタンCは同時に押さないでください。ボタンCを押して、1/10m針と深度針および最大深度針を0位置(0.0m)に合わせます。1/10m針と深度針は連動しています。1/10m針が1周すると、深度針が1m進みます。最大深度針は置き針式なので、深度針から右回転方向に押された場合にのみ動きます。最大深度針を深度針で連れて行き「0.0m」位置に合わせてください。



ボタンC
1回押すごとに1/10mが1/4目盛り分だけ進みます。つまり4回押しすと、1/10m (=0.1m = 10cm) 分進みます。押し続けると早く進みます。

深度針が「0m」付近では1/10m針が隠れてしまいますので、修正量がわかったらボタン押し回数を考えて合わせてください。ボタンBとCは同時に押さないでください。

すべての合わせが終わったら、合わせた時刻の時報を待ち、時報と同時にリュウズを押し込んでください。さらに押しつけながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

日付の合わせかた

- 時刻合わせをした後、日付けを合わせ直すとき。
- 前月が小の月(1ヵ月の日数が30日の月と2月)で月始めの日付けの修正のときに行います。

リュウズを左に回してネジロックをゆるめてください。

リュウズを1段目に引き出してください。

水深計測中とダイビング後10分間はこの操作をしないでください。強制的に計測が中断され、書き込まれるログデータがエラーになります。

リュウズを左に回して日付けを合わせてください。

午後9時～午前1時の間は日付けの合わせはしないでください。合わせ修正ができなかったり、修正しても次の日付けが正しく送られないことがあります。



合わせ終わったらリュウズを押し込んでさらに押し付けながら右に回し、リュウズが止まるまでネジ込んでください。

ダイビング機能の使いかた

(水深計測、潜水時間計測)

- 水深は0.1m単位で、1.6m～55.0mまで計測できます。計測は1秒毎に行います。
- 現在深度は「1/10m針」と大きな「深度針」とで示します。
- 潜水中の最大深度を置き針式の最大深度針で示します。(0.5m単位で1.5m～55.0m表示)
- 潜水時間は12時間まで計測表示が可能です。ログデータとしては2時間までが表示可能です。

それぞれの針の読みかたを覚えましょう!

- 基本時計の3本(時、分、小秒針)以外の6本の針がダイビング機能に関わる針です。
- 深度に関わる針が3本あります。(深度針、1/10m、最大深度針)
- 時間に関わる針は潜水開始時刻を示す2本(小時計)と潜水時間を示す1本(潜水時間針)です。

深度は「1/10m針」と「深度針」とで読み取ります

例. 現在深度12.5mの場合



深度針でmまで読み、1/10m針で0.1mを読みます。

例. 12.9mの場合



0.1m単位が「8」or「9」のような数値の場合は深度針が次の目盛りに近づくと、「13.9m」とは読まないこと。

最大深度は「最大深度針」で読みます

- 最大深度針は深度針に押され、最大深度位置に置かれます。
- 最大深度は0.5m単位で読み取ることができます。
- 最大深度針は、安全上の配慮からプラス方向にのみ多少のずれの構造になっています。特に、0mを示すときは、携帯中の振動によって約1m程ずれる場合がありますが、故障ではありません。ボタンBを押して、「各針の0位置確認」をすれば戻ります。ずれた状態でダイビングを行っても最大深度針の表示には影響ありません。

例. 最大深度20.5mの場合

潜水開始時刻は6時位置の「小時計」で示します



例. 潜水開始時刻が10時10分の場合

12時間制での表示のため午前午後の区別はできません。



潜水時間は「潜水時間針」で示します

- 長い「潜水時間針」は1/5分(12秒)ステップで動きます。
- 1周60分の分針の感覚で読み取れます。

例. 潜水時間が17分の場合

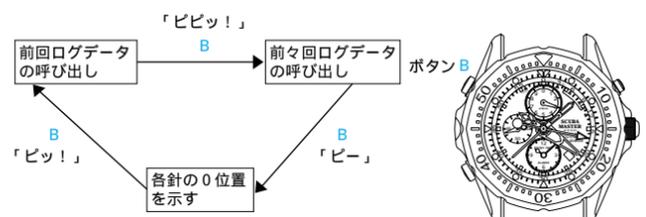


潜水時間針は1/5分ステップで運針しますが、読み取りは分単位で行ってください。

具体的な使いかた

- ダイビングに関わる針が、ログデータを表示中でも水深計測を開始します。
- より安全なダイビングを心がけるためにも以下の手順で針位置を確認してからダイビングにのぞみましょう。

まず、ログデータを読み出してみましょう。(35ページ「ログデータの呼び出しかた」を参照) ボタンBを押してログデータを読み出してください。ボタンBを押すたびに下図のようにログデータの呼び出しができます。1つのデータの呼び出しにはやや時間がかかります。



このとき、2つのログデータを各針が正しく示しているかを確認します。さらにその次の呼び出しで各針の「0位置」を正確に示すことを確認します。

この「0位置」表示がまさにダイビング前のベストな状態になります。

ダイビングを行っていない場合でもログデータは必ず2回分入っています。

(48ページ「電池交換後のお願い」参照)
ワンタッチアラームがセットしてあっても、ログデータ呼び出すことでキャンセルされます。
万一、0位置を正確に示さない場合は「時刻の合わせかた」の「0位置合わせ」(14ページ)をしてください。
水深計測が始まると2つのログデータの内、前々回のログデータが消去されますので、ログブックなどに書き移すことをお勧めします。

各針の「0位置」に異常が無い場合は、そのままダイビングにご使用ください。
1.6m以深を感知すると初めて深度針などが動き始めます。

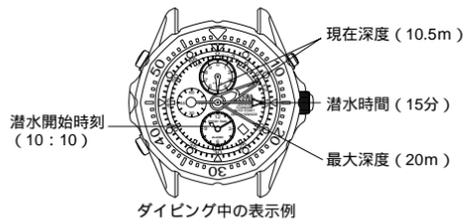


深度2.7mを感知している状態

22

1.6m以深の深度を感知してから潜水とみなし、潜水開始時刻の記録と潜水時間の計測を始めます。
ダイビングの前に各針を「0位置」にせずに潜った場合は、1.6m以深の感知後、各針が1回「0位置」に戻ってから深度等を示しますので、現在深度を示すまでに時間が掛かります。「0位置」を表示させてからのダイビングを心がけましょう。
ワンタッチアラームをセットしたまま、ダイビングをした場合は1.6m以深を感知すると同時に、ワンタッチアラームはキャンセルされます。

(39ページ「ワンタッチアラームの使いかた」参照)



ダイビング中の表示例

23

ダイビングを終えて

1.6m未満の深度を感知すると、潜水時間の計測を止め、深度は「0.0m」となります。この状態から10分間の行動によって状態が変わりますので2つの場合を説明します。

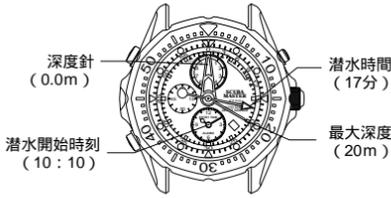
10分以内に再び1.6m以深の深度を感知した場合

継続的な潜水とみなし、それまでの経過時間(水面休止時間)が潜水時間に加算されます。

10分間1.6m未満の深度が続いた場合

1回の潜水が終了したとしてログデータを記録します。

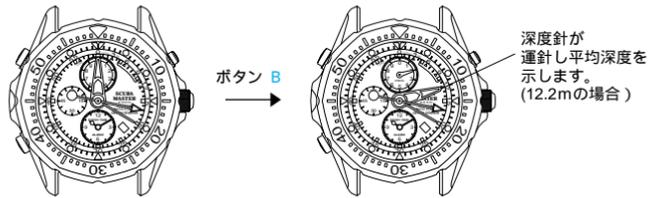
尚、その後1.6mを感知した場合は次の潜水として扱います。



潜水後の表示例

24

潜水後10分経過後、ボタンBのログデータの呼び出しが可能となります。今の潜水のログデータの「平均深度」以外は表示していますので、ボタンBを押した場合は深度針が平均深度を示すことで、前回潜水のログデータを表示します。



次のボタンBの操作からログデータの呼び出しとして通常に操作できます。

(35ページ「ログデータの呼び出しかた」参照)

次の潜水に際しては操作からはじめてください。

25

潜水後10分間はボタン操作ができません。よってログデータの呼び出しやワンタッチアラームは使用できません。

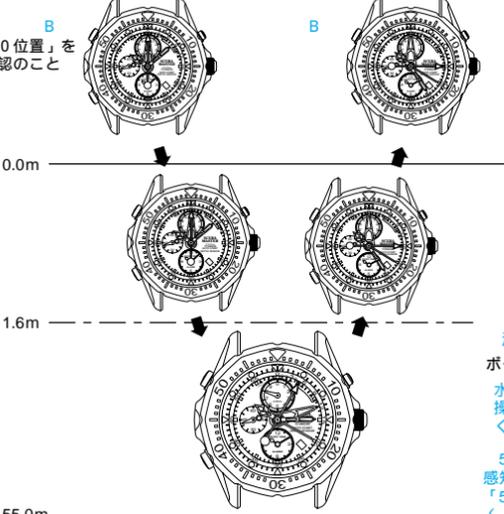
(35ページ「ログデータの呼び出しかた」参照)

(39ページ「ワンタッチアラームの使いかた」参照)

24

潜水の全体像

「0位置」を確認のこと



26

1.6m未満を感知してから10分後からボタンBのリコールが可能となります。

1.6m未満を感知してから10分間はボタン操作はできません。

浮上速度警告表示
ボタン操作はできません
水深計測中のリュウズ操作は絶対に行わないでください。

55.0mを越える深度を感知した場合、深度針が「56分位置」を示します。(27ページ「ダイビング警告機能について」を参照)

計測範囲外表示 LIMIT

- 深度が55.0mを越えた場合、深度針が「56分位置」(LIMIT)を示します。
- 最大深度針も深度針に押しされ「56分位置」になります。



55.0mを越える深度を感知した場合の深度針位置

55.0m以深の深度を感知した潜水のログデータは、最大深度(最大深度針)：56分位置(LIMIT) 平均深度(深度針)：56分位置(LIMIT)となり、潜水開始時刻と潜水時間は計測した通りのデータになります。

28

計測異常・計測停止表示 異常発生!ダイビングにおける使用は禁止!

- 水深計測中にセンサーに異常を感知した場合、自動的に水深計測を中止します。
- 深度針は計測異常・計測停止位置の「58分位置」を示します。
- 潜水時間等の計測も中止されます。



水深計測中に異常感知した場合

異常を感知した潜水のログデータは、最大深度(最大深度針)：0m位置 平均深度(深度針)：58分位置となり、しかも潜水開始時刻と潜水時間は異常値となり記録としては使用できません。

29

水深計測上の注意事項

注意

水深計測について

- 0 ~ +40 の範囲でご使用ください。
- 電池寿命切れ予告の「2秒運針」になっていると、水深計測をしませんので、ダイビングに使用しないでください。
- 各針の「0位置」を確認した際、深度針が「58分位置」にある場合も水深計測をしません。
- 潜水中に深度針が「58分位置」を示した時は、水深計測に異常を感知し計測を中止したことを示しますので、速やかにダイビングを中止するかこの時計の使用を中止してください。
- 55m以深では深度針が「LIMIT」位置(56分位置)を示します。55m以深を感知した場合、「平均深度」が計算できなくなりますので、後で呼び出すログデータの「平均深度」は最大深度針と同じく「56分位置」を示します。
- 「1.6m」以深を感知してから潜水終了後10分はワンタッチアラーム機能がはたらきません。
- この時計の水深計測は海水(比重1.025)を基準に深度を計算しておりますので、淡水などにおいて使用した場合は、実際の深度より浅く表示されます。
- 携帯温度と水温とに極端な差(直射日光下に放置された時計を水中に入れる場合など)がある場合には、正確な水深計測はできません。ご使用前に時計を水に約5分程度浸してからご使用ください。
- 大幅な気圧・温度変化のあるところや、水深計測保証温度範囲(0 ~ 40)外で使用した場合、深度表示に狂いが出るばかりでなく、陸上においても「1.6m」以深を表示する場合があります。この時、ボタン操作もできなくなります。

30

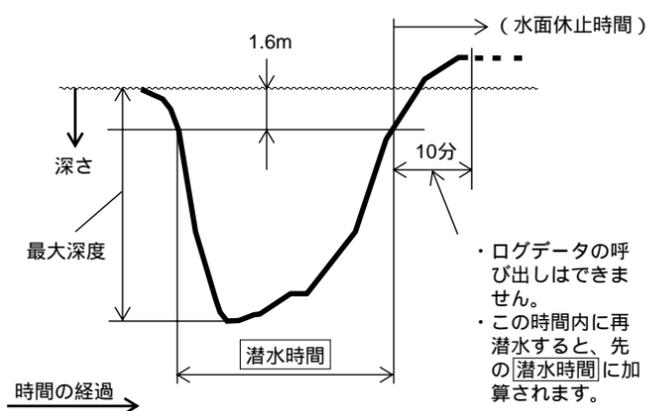
強制的に水深計測を中断する場合 必要が無い場合は絶対に行わないこと!

- リュウズネジロックをゆるめます。
- リュウズを1段目まで引き出してください。
- 水深計測が強制的に中断されます。このログデータは異常値として記録されます。
- リュウズはもとの状態に戻しておいてください。
- 特に航空機に搭乗した場合は気圧の変動を受けるので、水分感知センサーに指などが触れることで、水深計測を開始する可能性があります。
- ケースについたゴミ・砂等の異物は真水で洗い流してください。取れない場合は、お買い上げ店、またはセイコー取扱い店にご相談ください。
- ケースにガソリン・アルコールなどの薬品が触れると、内蔵されているセンサーの故障の原因になりますのでご注意ください。
- 潜水中は、リュウズのネジロックをゆるめたり、リュウズを引き出したりしないでください。

潜水開始時刻と潜水時間について

- 1.6m以深を感知してから潜水として扱い、潜水開始時刻をその現時刻とします。潜水時間の計測もこの時スタートします。
- 1.6m未満を感知すると一旦潜水時間の計測を中止します。その後10分以内に1.6m以深を感知しなければ、潜水時間を先ほどの中止した時間で確定させます。この10分以内に1.6m以深を感知すると潜水が継続しているとして、一旦中止した潜水時間に中断していた時間を加算して時間計測を再開します。
- 深度1.6m付近を上下した場合、最後に1.6m未満を感知して10分以上その状態が続いた場合1回の潜水として扱います。その後1.6m以深を感知すると次の潜水として扱います。

31



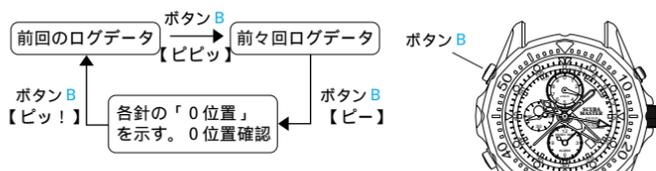
- ・ログデータの呼び出しはできません。
- ・この時間内に再潜水すると、先の潜水時間に加算されます。

深 度	水深計測して算出した水深値をいい、1.6mから深度針が示し始めます。1.6m未満の時は0.0mになります。海水（比重1.025）を基準に最大55.0mまで0.1m単位で示します。
以 深	ある深度を含むそれより深い領域のこと。
以 浅	ある深度を含むそれより浅い領域のこと。
未 満	ある数値を含まないそれより小さい数値の領域のこと。
潜 水 時 間	深度1.6m以深を計測している間の時間をいいます。つまり潜りはじめて深度1.6m以深になった時点から、浮上し深度が1.6m未満になった時点までの時間となります。潜水時間針は1 / 5分（12秒）単位で運針し、最大12時間まで計測します。それを越すとすべての計測を終了させます。1.6m未満を感じてからの経過時間（水面休止時間）が10分未満での再潜水は前回の潜水からの継続とみなし、前回潜水時間と水面休止時間を合わせた時間から潜水時間の計測を再開します。

潜水開始時刻	潜水し、深度1.6m以深を感じた時刻。6時位置の小时計で示します。
水面休止時間	浮上し、深度1.6m未満となった時点からの時間をいいます。（本製品には直接読める表示はありません）
最大深度	1回の潜水中で計測した最も深い深度のことをいいます。
平均深度	潜水中の深度を平均化したもので、実際には計測した全深度データをデータ数で割ったものです。
浮上速度	深度が小さくなる速さをいいます。この速度が速すぎると危険がおよびますので、18m / 分相当を越えると警告を発します。

ログデータの呼び出しかた (2回分のログデータと針0位置確認)

- ・自動的に記録されたログデータを確認することができます。
 - ・2回分のログデータとして潜水開始時刻、潜水時間、最大深度、平均深度を記録しています。
 - ・ログデータの呼び出しと潜水情報を示す「針の0位置」の確認ができます。
- ボタン B を押すとログデータの呼び出しができます。ボタン B を押すたびに、下図のような順番でログデータと「0位置」を示します。



確認音について
このときボタン B の操作とともにそれぞれ確認音になりますので、音からもとの呼び出しが分かれます。
「ビッ!」：短い確認音 最新ログデータを読み出すとき
「ビビッ」：連続した2つの確認音 古いログデータを読み出すとき
「ビー」：比較的長い確認音 各針の「0位置」を示すとき

潜水後10分間はこの操作はできませんので、ご注意ください。
潜水後10分経過してはじめてボタン B を押した場合、最新ログデータを示すのですが、深度針が「平均深度」を示す以外はすでに針がその位置にありますので、深度針だけが動くことになります。（「ダイビング機能の使いかた」の「具体的な使いかた」(20ページ)を参照）
ワンタッチアラームをセットしてある場合はこの操作でキャンセルされますので、各針の0位置を示し終わってからアラーム時刻を合わせ直してください。
（「ワンタッチアラームの使い方」(39ページ)参照）

ログデータの読みかた
・ダイビング中とほぼ同じ表示のしかたです。
・深度針が、「ダイビング中の現在深度」から「ログデータの平均深度」に変わります。



ログデータにおける最大深度針の深度針の表示内容

- 最大深度針と深度針（平均深度）が2本とも「56分位置」を示す場合
解説
これはこの潜水中に55.0mを越える水圧を感じたことを示し、最大深度および平均深度が表示および計算できないことを示します。潜水開始時刻と潜水時間は正確です。
- 最大深度針は「0m」、深度針が「58分位置」を示した場合は、
解説
潜水開始から潜水後10分間までに水深計測上なんらかの異常を感じたことを示します。この場合のログデータは異常値となりますので、記録としてはご使用しないください。



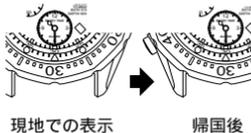
潜水開始時刻と潜水時間も異常値になります。

ログデータにおける小时計と潜水時間針の表示内容

- 小时計が潜水開始時刻を12時間制で示します。
・小时計は12時間制でのみ示しますので午前・午後は表示できません。



- 潜水を開始した時刻は、その後時刻合わせをし直しても記録した時刻は変わらず表示できます。
例 グアム島に旅行し、現地時間に合わせてからダイビングをした。現地時間10:30潜水開始時刻のログデータが記録され、日本へ帰国。当然、日本時間に合わせ直す。その後、ログデータを読み出すとそのログデータは潜水開始時刻10:30と示します。



- 潜水時間は2時間までの潜水時間を示します。
・計測は12時間まで可能ですが、ログデータとしては、2時間までの表示しかできません。
・潜水時間針は1周60分ですので、それ以上は1周以上回って示すことになります。
例 ログデータに65分の潜水時間が記録された場合、呼び出しのボタン操作で潜水開始時刻を小时計が示した後、潜水時間針が動き始めます。1周以上回って5分位置に留まり、「65分」を示します
2時間以上の潜水時刻を記録した場合2時間の表示（潜水時間針が2周回って0分位置で停止）となります。



65分の場合

各針が「0位置」を示しているとき6時の小时計は基本時計と同じ時刻を示します。



基本時計の時刻と小时計の時刻が合っていない場合は時刻合わせをし直してください。

- (11ページ「時刻の合わせかた」参照)
ボタン A を押すとアラーム時刻がセットできます。ボタン A を1回押すことに小时計が1分ずつ進みます。アラームを鳴らしたい時刻に合わせてください。押し続けると早く進みます。

アラーム時刻は進む方向にしか合わせられませんので、進み過ぎた場合は、もう一度約12時間分進めて合わせてください。

ボタン A を押し続けて現在時刻に一致した位置に留まりますので、ボタン A を押し直し、合わせ直してください。

- (41ページ「ワンタッチアラームのキャンセル」参照)



ワンタッチアラームをセットした時刻になると、アラームが20秒鳴ります。

セットした時刻になる前に、ボタン B を押してログデータを読み出したり、ダイビングを行うとワンタッチアラームはキャンセルされます。ボタン A が押されるとアラーム設定時刻が進んでしまいますのでご注意ください。

鳴っているアラーム音を止めたいとき

鳴っているアラーム音を止めたい場合は、ボタン A、B、Cのいずれかを押し下さい。

ワンタッチアラームのキャンセル

- ・セットしてあるワンタッチアラームをキャンセルしたい。
方法1 : ボタン B を押し、ログデータの呼び出しをする。
方法2 : ボタン A を押し続ける。小时計が現在時刻と一致すると小时計はそこで留まります。
合わせ直す場合は39ページ「ワンタッチアラームの合わせかた」に従って合わせ直してください。

回転ベゼルについて

- ・回転ベゼルの「 」マークを分針に合わせて、その時点からの経過時間をベゼル上の目盛で読み取ることができます。
- ・潜水開始時に、合わせて潜れば、潜水時間の計測ができます。
- ・この時計には1.6m以深の潜水時間を計測する機能がありますので、必要に応じて水面休止時間の計測などにご使用いただけます。

経過時間の測定

回転ベゼルの左に回し、「 」マークを分針に合わせて。ある時間が経過した後、分針の指す回転ベゼル上の目盛を読めば、その時点での経過時間がわかります。



左図は例として10時10分に測定開始し、20分経過したことを示しています。

回転ベゼルの時計と逆方向にしか回りません。また、1/2分単位のクリックがついています。

42

電池についてのお願いとご注意

警告

1. お客様は、時計から電池を取り出さないでください。
2. やむを得ずお客様が時計から電池を取り出した場合は、電池は直ちに幼児の手が届かないところに保管してください。
3. 万一飲み込んだ場合は、身体の害があるため直ちに医師と相談ください。

注意

1. 破裂、発熱、発火などのおそれがありますので、電池を絶対にショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。
2. この時計に使用している電池は、充電式ではないので、充電すると液漏れ、破損の恐れがあります。絶対に充電しないでください。
3. 「5 - 35」からはずれた温度」下で長時間放置すると電池寿命が短くなる場合があります。

44

2. 電池について

(1) 電池寿命

この時計は、新しい正常な電池を組み込んだ場合、その後約2年作動します。

ただし、アラーム1日15秒、水深計測を1回1時間使用で年50回を基本としていますので、それ以上使用した場合は、2年に満たないうちに容量が切れることがあります。

(2) 最初の電池

お買い上げの時計にあらかじめ組み込まれている電池は、機能・性能をみるためのモニター用電池です。お買い上げ後、上記の年数に満たないうちに電池寿命が切れることがあります。

電池寿命が切れた場合、保証期間内であっても電池交換は有料となります。

46

■電池交換後のお願い(システムリセット)とご注意

- ・電池交換後や、万一異常な運針になった場合、以下の操作をしてください。時計内部のシステムがリセットされ、正常に機能するようになります。
- ※この操作をすることで記憶しているログデータが消えてしまいますので前ページの「電池交換にあたって」をお読みください。

システムリセットのしかた

リュウズを2段階まで引き出して、ボタン(B)とボタン(C)を同時に押してください。ご使用前に下記の順番で操作してください。

- ①11ページ「時刻の合わせかた」に従い合わせ操作。
- ②ログデータの呼び出し操作。(ボタン(B)を押す)

〈システムリセット後に表示されるログデータについて〉

- ・ダイビングをしなくても下記のログデータが記録されています。
- | | 潜水時間 | 最大深度 | 平均深度 | 潜水開始時刻 |
|------------|------|------|-------|----------|
| ログデータ(前回) | 15分 | 20m | 10.0m | 任意の時刻 |
| ログデータ(前々回) | 30分 | 40m | 20.0m | 前回ログ+6時間 |
- ※システムリセット後、正しい操作をしても上記のログデータが正確に表示されない場合は故障の可能性がありますので、お買い上げ店、またはセイコーお取扱店へ、ご相談ください。



リュウズ
2段階
ネジロック
解除位置

48

静電気について

- ・時計に使われているIC(集積回路)は静電気に弱い性質をもっています。強い静電気を受けた場合は、針位置等が狂うことがあります。特にテレビ画面からは強い静電気が出ておりますので近づけないでください。

磁気について

- ・この時計は、4,800A/mまでの磁気に耐える構造になっています。ただし、圧力センサーは、強い磁界に対して一時的に影響を受けることがありますので、ご注意ください。

保管について

- ・「-10℃～+60℃からはずれた温度」下では機能が低下したり停止したりする場合があります。
- ・磁気や静電気の影響があるところに放置しないでください。
- ・極端にホコリの多いところに放置しないでください。
- ・強い振動のあるところでの使用あるいは、保管をしないでください。
- ・薬品の蒸気が発散しているところや薬品のあるところに放置しないでください。
- 薬品の例: ヨウ素系消毒液、水銀、ベンジン、シンナー、などの有機溶剤およびそれらを含有するもの(ガソリン、マニキュア、化粧品などのスプレー液、クリーナー剤、トイレ用洗剤、接着剤など)
- ・温泉や防虫剤の入ったひきだしなど特殊な環境に放置しないでください。

50

「ルミブライト」について

[お買い上げの時計がルミブライトつきの場合]
「ルミブライト」は、放射能等の有害物質を全く含まない、環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)物質です。

ルミブライトは太陽光や照明器具の明りを短時間(約10分間:500ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約5~8時間)光を放つ夜光です。

警告

なお、蓄えた光を発光させているので輝度(明るさ)は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際のまわりの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時間には多少の誤差が生ずることがあります。特に暗い環境での潜水の際は、光が十分に吸収されていないと水中で発光しない場合があります。最低でも上記条件の光をあてるか、水中ライトを併用して潜水される様、十分ご注意ください。

照度データ(目安値)

- A太陽光(晴天)[100,000ルクス(曇天)10,000ルクス]
- B屋内(昼間窓際)[晴天]3,000ルクス以上[曇天]1,000~3,000ルクス[雨天]1,000ルクス以下]
- C照明(白色蛍光灯40Wの下で)[1m]1,000ルクス[3m]500ルクス(通常室内レベル)[4m]250ルクス

43

1. 電池寿命切れ予告機能

- ・電池寿命切れが近づくとき小秒針が2秒運針(1回に2秒ずつ運針すること)します。2~3週間中に時計が止まる可能性がありますので、お早めに電池交換をしてください。
- ・この2秒運針中ではダイビング機能(水深計測)がまったく作動しませんので、ダイビングには絶対に使用しないでください。
- ・各針の「0位置」を表示させた場合、深度針のみが「58分位置」を示して異常であることを示します。ただし、ログデータの呼び出し中では深度針がこの「58分位置」には進みませんのでご注意ください。



各針の「0位置」表示中の場合

小秒針が2秒運針中でも時刻は正確です。

記録しているログデータの呼び出しはできませんので、時計が止まってしまう前にログブック等に書き移すことをお勧めします。(「電池交換にあたって」参照)

2秒運針中ではワンタッチアラームは鳴りません。

45

(3) 電池交換

この時計は、電池交換する時や、電池寿命が切れた場合、それまで記憶していたログデータが消去されますので、あらかじめ保存しておきたいログデータは書き写しておくことをお勧めします。影響を受けるのは2回分のログデータです。

ダイバースウォッチは潜水に使用されるため、電池交換にあたっては厳重なチェックが必要です。

電池交換の受け付けはお買い上げ店、またはセイコー取扱店でいたしますが、交換作業はすべてセイコーサービスセンターで行います。

時計は取扱店からセイコーサービスセンターに送付され、電池交換と同時に防水性、パッキン検査・交換、水深計測検査などを実施しますので、10日間前後のお預かり期間と、電池交換費用のほかに費用がかかる場合がございます。

電池寿命切れとなったまま長時間放置すると、電池からの漏液などで故障の原因になりますので、お早めに電池交換をしてください。

47

■使用上のご注意とお手入れの方法

注意

日常のお手入れ

- ・ダイビングなど海水での使用のあとは、真水で洗い、よくふいてください。
 - ・ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。汚れたままにしておくことで衣類の袖口を汚したり、かぶれの原因になることがありますので常に清潔にしてください。
 - ・時計を外したときは、柔らかい布などで汗や水分をふきとるだけで汚れやケース、バンド、及びパッキンの寿命が違ってきます。
 - ・回転ベゼルの下に汚れ等がたまり回転が重くなる場合がありますので、清潔にご使用ください。
- 〈軟質プラスチックバンド〉
- ・ウレタンバンド等軟質プラスチックでできているバンドは、特に手入れの必要はありませんが汚れがひどいときは石鹸水で洗ってください。化学製品でするので溶剤によって変質することがあります。通常数年のご使用で材質が硬化してきたり、色があせたりする場合がありますので、その際は新しいバンドに交換してください。

かぶれやアレルギーについて

- ・バンドは多少余裕を持たせ、通気性をよくしてご使用ください。
- ・かぶれやすい体質の人や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれをきたすことがあります。
- ・かぶれの原因として考えられるのは、
 1. 金属・皮革に対するアレルギー
 2. 時計本体及びバンドに発生した錆、汚れ、付着した汗等です。
- ・万一肌などに異常を生じた場合は、直ちに使用を中止し、医師にご相談ください。

49

その他、携帯上ご注意いただきたいこと

- ・バンド着脱の際に中留などで爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- ・転倒時や他人との接触などにおいて、時計の装着が原因で思わぬケガを負う場合がありますのでご注意ください。
- ・特に乳幼児を抱いたりする場合は、時計に触れることでケガを負ったり、アレルギーによるかぶれをおこしたりする場合がありますので十分ご注意ください。

定期点検について

ながくご愛用いただくために、2~3年に一度程度の点検調整をおすすめします。定期的な点検により目に見えない部分の原因となる損傷を未然に防ぎ、より安心してご使用いただけます。点検の受け付けはお買い上げ店またはセイコー取扱店でいたしますが、点検作業はすべてセイコーサービスセンターで行います。点検の結果によっては調整・修理を必要とする場合があります。部品交換の際は「セイコー純正部品」とご指定ください。ウレタンバンドは材質の特性上、弾力性が失われ硬化してきます。お買い上げ店、またはセイコー取扱店で交換用のバンドをご用命ください。

51

■こんな時には

現象	考えられる原因
時計が止まっている	電池寿命切れとなった。
時計が一時的に遅れる／進む	寒いところ、または、暑いところへ放置した。 磁気を発生するものそばに置いた。 落としたり強くぶつけたりまたは激しいスポーツをした。 強い振動が加えられた。
小秒針が2秒運針している	電池寿命切れが近づいた。
日付けが、日中に変わる	時刻合わせが間違っている。
深度針が58分位置を示した	電池寿命切れが近づいた。または水深計測になんらかの異常が発生した。
ボタン操作が効かない	水深計測中と、深度が1.6m未満になってから10分以内は、ボタン操作を禁止する仕様になっています。
針の「0位置」がずれてしまった	時計を落とした、または激しくぶつけた。
ガラスのくもりが消えない	バックインの劣化などにより時計内部に水分が入った。

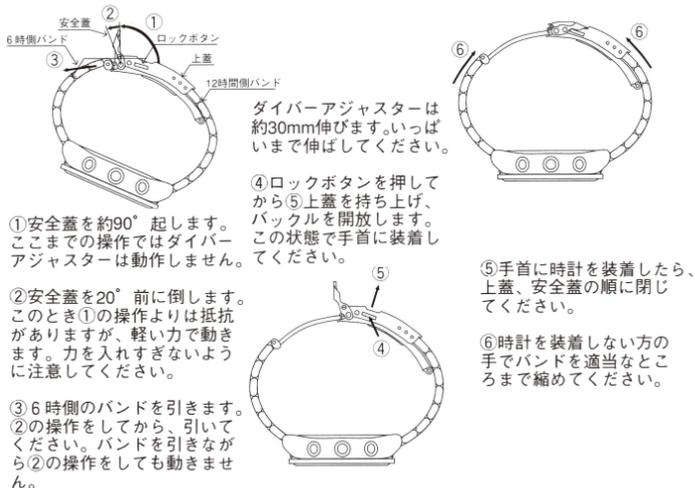
52

このようにしてください
直ちに電池交換を、お買い上げ店またはセイコー取扱店にご依頼ください。
常温に戻れば正常な状態に戻ります。時刻を合わせ直してください。この時計は気温5℃～35℃で腕につけたときに安定した時間精度が得られるように調整してあります。
磁気を遠ざけると、もとの精度で動きます。時刻を合わせ直してください。元に戻らない場合はお買い上げ店またはセイコー取扱店にご相談ください。
時刻を合わせ直してください。元に戻らない場合は、お買い上げ店またはセイコー取扱店にご相談ください。
ダイビングには使用しないでください。直ちに電池交換を、お買い上げ店またはセイコー取扱店にご依頼ください。
12時間分針を進めてください。
電池寿命切れ予告（小秒針が2秒運針）になっている場合は電池交換をご依頼ください。電池寿命切れでない場合は、水深計測に異常が発生しましたのでダイビングには使用せず、お買い上げ店またはセイコー取扱店にご相談ください。
水深計測が終わり、深度が1.6m未満になってから10分以上お待ちください。また、陸上においてこの状態が続く場合は、強制的に水深計測を中断させてください。（→31ページ参照）
時刻の合わせかたの「0位置」合わせに従い、合わせ直してください。
お買い上げ店またはセイコー取扱店にご相談ください。

53

■ダイバーアジャスターの操作

バンドの長さを簡単に調整する機構です。ウェットスーツの上に着用する際などにお役立て下さい。



54

■アフターサービスに関する事項

- ・万一故障した場合には、お買い上げ店またはお近くのセイコー取扱店にお持ちください。保証期間内の場合は保証書を添えてください。
- ・修理期間経過後の修理およびこの時計についてのご相談はお買い上げ店またはお近くのセイコー取扱店でうけたまわっております。なお、ご不明の点は「セイコー株式会社お客様相談室」「セイコーサービスセンターお客様相談係」にお問い合わせください。
- ・保証内容は保証書に記載したとおりですので、よくお読みいただき大切に保管してください。

■補修用性能部品に関する事項

- ・この時計の補修用性能部品の保有期間は通常7年間を基準としています。正常なご使用であれば、この期間中は原則として修理可能です。（補修用性能部品とは、時計の機能を維持するのに不可欠な修理用部品です）
- ・修理可能な期間をご使用条件によりいじりくく異なり、精度が元通りにならない場合もありますので、修理ご依頼の際にお買い上げ店とよくご相談ください。
- ・修理のとき、ケース・文字板・針・ガラス・バンドなどは一部代替品を使用させていただくことがありますのでご了承ください。

55

■製品仕様

1. 水晶振動数・・・32,768Hz（Hz＝1秒間の振動数）
2. 時間精度・・・平均月差±15秒（気温5℃～35℃において腕につけた場合）
3. 作動温度範囲・・・-10℃～+60℃
但し、水深計測機能：0℃～+40℃
4. 駆動方式・・・ステップモーター式（4個）
5. 主な表示内容
 - 時刻表示機能：現在時刻（時・分・小秒針：毎秒ステップ運針）、日付け
 - 水深計測機能：現在深度（深度針・1／10m針）
最大深度（最大深度針：0.5m単位）
潜水時間（潜水時間針：1／5分ステップ運針）
潜水開始時刻（6時位置小時計：時分）
 - ログデータ：ログデータを2回分記憶
最大深度（最大深度針：0.5m単位）
平均深度（深度針・1／10m針）
潜水時間（潜水時間針：1／5分ステップ運針）
潜水開始時刻（6時位置小時計：時分針）
 - アラーム機能：〈通常時〉現在時刻を表示（6時位置小時計：時分針）
〈セット時〉アラームセット時刻（同上）
※アラーム目安精度±1分

56

6. 使用電池・・・小型リチウム電池 SB-T11 1個
7. 電池寿命・・・約2年（ただし使用条件により異なる）
8. 電池寿命切れ予告機能付き・・・小秒針が2秒運針。潜水前状態で深度針を「58分位置」へ
9. 電子回路・・・C-MOS-LSI 2個
半導体圧力センサー 1個
10. センサー精度
 - ・水深度：±（表示値×3.0%+0.5m）以内 但し、温度一定の場合〈温度変化による影響〉
±1m以内（20℃の変化に対して）
11. 耐磁性能・・・4,800A/m（60ガウス、JIS・ISO両規格に準ずる）
12. 外装防水性能・・・200m空気（スクーバ）潜水用防水（JIS1種潜水時計200m）

※上記の製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

57